

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 12/June/2023/vol.736



—七夕の願いをのせて— 梶の葉（徳島県産） "Kaji-no-ha" Paper mulberry leaf

「七夕の 門渡る舟の 梶の葉に いく秋書きつ 露のたまづさ」

藤原俊成『新古今和歌集』にあるように、七夕の短冊の前身は、実はこの梶の葉だったそうです。七夕の起源といわれる、中国の行事「乞巧奠」(きっこうでん)では、夜露が里芋の葉に溜まると、それは天界の神の恵みだととらえ、その水で墨をすり歌を梶の葉にしたためて願い事したという謂れがあります。梶の葉には細かい産毛が生えていて、墨で書いた文字は滲みにくいそうで、他にも梶の葉は神前の供物を供えるために器の役割も担っていたこともあり、神道でも昔から神聖な植物とされ、それは今でも神社の境内によく見られる木としてご存知の方も多いのではないでしょうか。葉の形も特徴的で、神社の紋や家紋として使われてきました。7月7日の七夕の時に、今年は何をしたためてみましょうか。一般的となった牽牛と織女の出会いの伝説もありますが、ふと古代の風景を思う時、梶の葉はその歌のごとく「天の川を渡る船の舵(梶・かじ)となり、願い事をかなえてくれる」のかもしれない。梶の葉に秘められたそんな七夕との深い意味を知ると、星空を眺めながらより一層味わいも感じられるでしょう。平安時代の貴族たちが梶の葉に願い事、和歌を書いて川に流したように、今の季節だからこそ、風流な時間を演出するあいらいとして古の歴史も感じつつお使いいただきたい素材です。